

没後 70 年 南薫造

広島県呉市出身の南薫造（1883-1950）の没後 70 年を記念して開催する初の大規模な回顧展。南は、明治末から昭和の戦後間もなくの頃にかけて、日本の洋画界に多くの業績を残す画家でありながら、その名が広く知られているとは言えません。過去に開催された回顧展が、故郷・広島県内での開催にとどまってきたのもその一因だと思われます。このたびの展覧会は、郷里での開催はもとより、東京と久留米でも開催することで、彼の画業をより多くの人に知ってもらおうというものです。

本展が日本近代洋画史をさらに広い視点から見直す機会になればと思います。

展覧会名	没後 70 年 南薫造
会期	2021 年 7 月 3 日（土）— 8 月 29 日（日） ※水彩、版画、日本画は、半期展示（前期 7/3-8/1、後期 8/3-8/29）
出品点数	作品総数 201 点（前期・後期の展示点数=136 点）、スケッチブックなど資料 51 点 （作品内訳：油彩 73 点、水彩 102 点、版画 22 点、日本画 4 点）
会場	久留米市美術館 2 階
主催	久留米市美術館、NHK 福岡放送局、NHK エンタープライズ九州、毎日新聞社
後援	久留米市教育委員会、RKB 毎日放送
制作協力	NHK プロモーション
スペシャルパートナー	株式会社ブリヂストン
オフィシャルパートナー	学校法人久留米大学、株式会社筑邦銀行、株式会社森光商店、喜多村石油株式会社、株式会社ユー・エス・イー
入館料	一般 1,000 円（800 円） シニア 700 円（500 円） 大学生 500 円（300 円） 高校生以下無料 障害者の方は手帳のご提示で、ご本人と介護者 1 名は一般料金の半額。 （ ）内は 15 名以上の団体料金、シニアは 65 歳以上。 上記料金にて石橋正二郎記念館もご覧いただけます。
休館日	月曜日（8 月 9 日は開館）
開館時間	10:00-17:00（入館は 16:30 まで）
交通案内	JR 博多駅より JR 久留米駅まで新幹線で 20 分、快速で 40 分 福岡(天神)駅より西鉄久留米駅まで特急で 30 分、急行で 40 分
本展に関するお問い合わせ	久留米市美術館 展覧会担当：森山秀子、原口花恵 〒839-0862 福岡県久留米市野中町 1015（石橋文化センター内） TEL 0942-39-1131 / FAX 0942-39-3134

南 薫造 (みなみ・くんぞう 1883-1950)

1883 (明治 16) 年、広島県呉市安浦町に生まれる。1902 年、東京美術学校西洋画科に入学、岡田三郎助に師事する。1905 年、白馬会創立 10 周年記念展に出品し初入選。1907 年、イギリスに留学。同地では、高村光太郎、白瀧幾之助、後に陶芸家となる富本憲吉らと親しくし、フランス、アメリカを経て 1910 年に帰国。白樺社主催「南薫造・有島壬生馬滞欧記念絵画展」で滞欧作を発表。この展覧会は、日本の洋画家による個人展覧会の嚆矢とされる。さらにこの頃、創作版画運動の先駆けとされる、自画自刻自摺による版画制作にも取り組んだ。

その後は、一貫して官展 (文展・帝展・新文展・日展) の中心的な画家として活躍。1916 年のインド訪問を皮切りに、台湾、中国、朝鮮などアジア各地にも取材した。1932 年から 1943 年まで東京美術学校教授も務め、多くの後進を育てた。1944 年に郷里に疎開、翌年空襲により東京の自宅アトリエを失い、1950 年に郷里にて死去。

展覧会の構成

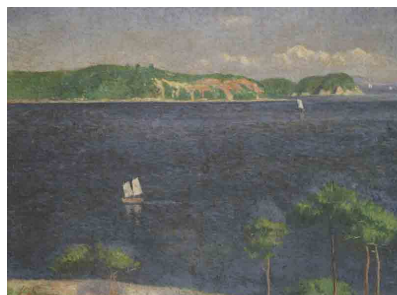
南薫造の画業を、初期から晩年にかけて 4 章構成で紹介します。

第 1 章 初期 美校時代

南薫造と西洋画の出会いは、広島市内の中学に通っていた頃のことでした。複製図版などを通して印象派の存在を知る一方、アメリカで学んだ西洋画家に水彩画の指導を受けるなど、恵まれた環境の中で、画家を志すようになったと思われます。1902 (明治 35) 年、東京美術学校 (美校) に入学した南は、フランスから帰国して間もない岡田三郎助の教室で学びました。1905 年の白馬会展に初出品、3 点の入選作のうち 2 点が買い上げとなるなど、画家として順調なスタートを切っています。そして卒業の 4 か月後、彼が留学先に選んだのは水彩画の本場イギリスでした。



① 《森》1903 年 水彩
広島県立美術館【後期
展示】



② 《瀬戸内海》1905 年 油彩
東京藝術大学



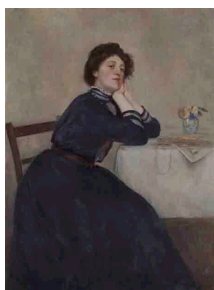
③ 《自画像》1907 年 油彩
東京藝術大学

第 2 章 留学時代

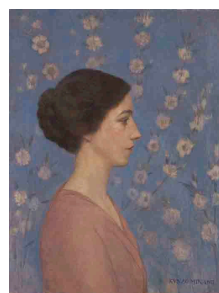
1907 (明治 40) 年 9 月、ロンドンに到着した南は、サウス=ウェスタン・ポリテクニクに入学して人物画を学ぶかわら、美術館や大英博物館に足繁く通い、エジプトやアジアの古代美術を模写しています。また、各地へ写生に出かけ、とりわけモルトン村やウィンザーでは、繊細な光のうつろいまで巧みに捉えた、透明感あふれる水彩画など充実した作品群を残しています。1909 年 7 月に拠点をパリに移し、イタリア、ドイツ、オランダ、ベルギーなど巡遊して 1910 年 4 月に帰国。留学中は富本憲吉、白瀧幾之助、有島壬生馬らと交友関係を築き、それは帰国後の南の活動にとって大きな糧となりました。



④ 《白壁の農家》1908年
油彩 広島県立美術館



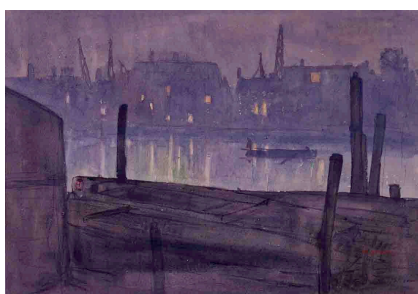
⑤ 《坐せる女》1908年 油彩
広島県立美術館



⑥ 《春(フランス女性)》1908年頃
油彩 公益財団法人ひろしま美術館



⑦ 《うしろむき》1909年 水彩
広島県立美術館【前期展示】



⑧ 《テムズ夜景》1909年頃
水彩 広島県立美術館【後期展示】



⑨ 《少女》1909年
油彩 東京国立近代美術館

第3章 帰国後の活躍

帰国後、南は白樺社主催「南薫造・有島壬生馬滞欧記念絵画展」で滞欧作を発表し、画壇の注目を集めました。第4回文展でも《坐せる女》で三等賞を受賞、以後8回展を除き9回展まで連続受賞し、10回展からは審査員に抜擢されるなど、新進作家として活躍します。油彩画を発表する一方で、水彩画や日本画、創作版画の先進例となる自画自刻自摺による木版画を制作するなど、新たな表現にも意欲を見せました。1910年代半ば頃からは、新たな方向性を模索し始め、しだいに力強く濃密な色彩表現へ向かいます。東京美術学校で後進も指導、1944年に郷里に疎開するまで、東京を拠点に充実した制作の日々が続きました。



⑩ 《舟おろし》1911年頃
木版 千葉市美術館
【後期展示】



⑪ 《六月の日》1912年
油彩 東京国立近代美術館



⑫ 《葡萄棚》1915年 油彩
早稲田大学會津八一記念博物館



⑬ 《すまり星》1921年
油彩 東京藝術大学

第4章 郷里での活動

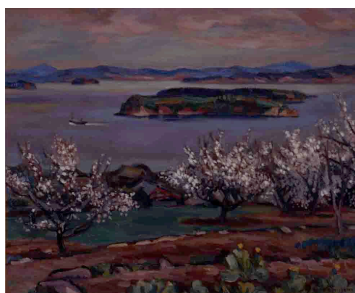
南の戦後は、創作の原点とも言える郷里にあって、瀬戸内の変わらぬ美を見つめ直す時代でもありました。戦争中スケッチを禁じられていた瀬戸内海を自由な伸びやかな筆で描き、農村風景や家族も多く描いています。それらの作品は、対象から受けた印象を素直に明るい色彩で画面に定

2021. 5. 15

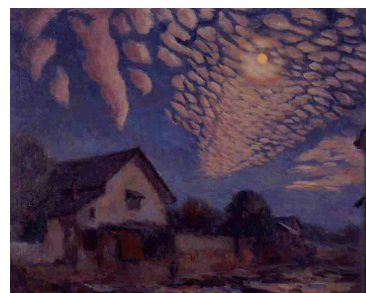
着させる、成熟した画風を示しています。また、日展出品や審査などを通して中央画壇と関わる一方、各種展覧会の審査や文化団体の役員就任、観光事業への協力など、地域文化の復興にも貢献しました。



⑭ 《曝書》1946年
油彩 広島県立美術館



⑮ 《瀬戸内海》油彩 広島県



⑯ 《生家の近く》1949年頃
油彩 個人蔵

関連事業

美術講座「色彩画家・南薫造の生涯と芸術」

要申込・聴講無料

長年、南薫造の研究に携わってこられ、今回の展覧会の企画に際し、中心的役割を果たされた藤崎綾氏にお話しいただきます。

日 時／7月31日（土）14:00-15:30（開場 13:30）

講 師／藤崎綾氏（広島県立美術館主任学芸員）

会 場／石橋文化会館 2F 小ホール（石橋文化センター内） 全席自由

申込方法／氏名、住所、電話番号を記入の上、ハガキまたは FAX で申し込み。7月20日

（金）必着。応募結果は7月24日（土）頃までに応募者全員にお知らせします。

申 込 先／久留米市美術館・美術講座係

〒839-0862 福岡県久留米市野中町 1015 FAX 0942-39-3134

作品掲載に関するお願い

1. 作品掲載をご希望の方は、別紙の「画像利用申込書」にて申請ください。
2. 展覧会の広報を目的とした使用に限らせていただきます。二次使用はできません。
3. 作品の文字のせ、トリミングはできません。
4. 当館が指定するクレジットを必ず作品と一緒に掲載してください。クレジットは別紙の「広報画像利用申込書」をご参照ください。
5. web ページ掲載の場合は、必ずコピーガードの処理をお願いします。
6. 広報用作品以外の画像をご希望の場合は、申込書の「その他」の欄にタイトルを記入してください。
7. 掲載見本を必ず1部お送りください。